

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成 30 年度をイメージして協議する。

P 平成 29 年度の当初計画

取り組み① 平成 30 年 4 月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動 (学校説明会・体験セミナー、パンフレットなど)
- ・学校説明会 H29 年度 7 月、10 月実施予定
 - ・セミナー年間 4 回 (5 月 6 年生、6 月 5、6 年生、8 月、11 月 5 年生以下を予定)
- b) IB ワークショップ
- ・高知県にて H29 年 8 月 16 日～18 日に MYP 全教科と TOK を予定。基本的に県内教員には文科省の助成有り。
 - ・管理職は 12 月ワークショップを開催し参加予定
- c) 開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- ・中学生理解の研修 (年間 4 回)
 - ・合格者を対象に小学校からの引継ぎ (3 月中)

取り組み② 授業 (MYP/DP) 研究

- a) テーマの決定およびユニットプランナー作成と実用化に向けた研修
- ・作成、第 1 稿完成 (中 1: 6 月、中 2: 3 月)
 - ・講師を迎えた研修 (年間 4 回)
 - ・高知南中学校における授業研究 (2 学期)
- b) 総合的な学習の時間 (個人研究) に向けた指導計画
- c) IB 教育の研究と理解促進
- d) 東京学芸大学附属国際中等教育学校における研修

取り組み③ IB (MYP/DP) 候補校、認定校申請準備

- a) 平成 30 年 4 月 1 日候補校申請に向けての申請準備
- 12 月：教育委員会内決裁 2 月：申請費用支払い
アドバイザーによる定期的な内容確認

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) MYP の実践を通した英語力について研究
- b) 幅広い学力層に対応する手立て
- c) 英語ネイティブのサポート
- d) 教科横断的な学びを意識した指導計画
- e) 英語に親しむ環境づくり

D 平成 29 年度の取り組み状況

取り組み① 平成 30 年 4 月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動
- ・学校説明会：H28 年度延べ 1380 名、H29 年度延べ 498 名、体験セミナー H29 年度 5,6 年生 3 回延べ 303 名。H28 年度 5,6 年生 5 回延べ 600 名に実施の他、H28 年度第 2 号パンフレットまで発行。H29 年度 7 月学校 H P 立ち上げを行ったが、主な内容は、学校や IB の概要周知に留まった。
 - ・高知西高校内での高知国際中に関する検討事項相談や決定事項の共有。廊下掲示物などによる IB に関する理解促進
- b) IB ワークショップ
- ・IB ワークショップ：H29 年夏までに、高知南中学校、高知西高校籍の教員から、MYP 全教科講座 2 名以上受講 (英語ネイティブ講師 2 名を含む。)
 - ・H29 年 8 月 IB 公式 WS 開催。(MYP7 講座, DP1 講座、136 名参加、うち県内教員 74 名)
- c) 開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- ・中学生理解についての研修：講師：高知大学鹿嶋真弓准教授
平成 28 年度 4 回。平成 29 年度 5 月実施。あと 3 回の実践研修は日程調整中
 - ・高知南中学 1 年生対象の合宿 (4 月) や授業 (英語、数学、理科) を参観

取り組み② 授業 (MYP/DP) 研究

- a) 中学 1 年生全教科ユニットプランナー作成。第 1 稿完成 (6 月)、検討改善
- ・クインシー亀田氏による指導のもと、精度を上げ、開校後も持続するための研修を実施。(4 月、5 月、8 月) →バディ制を活用し、複数の担当者による授業設計を検討
 - ・高知南中学校において、教科担当や探究型授業の推進について授業研究。(5 月理科研究授業参加、6 月打ち合わせ、9 月授業実施)
- b) 総合的な学習の時間を軸に全教育活動を計画
- c) 札幌開成中高等学校視察、聞き取り。(7 月)
- ・道徳、外国語教育、次期学習指導要領の改訂ポイントなど新情報を得ながら MYP 授業を検討
- d) 東京学芸大学附属国際中等教育学校長期派遣教員 7 名 (国語 2 名、数学 1 名、理科 1 名、英語 1 名、体育 1 名、美術 1 名) 研修中。(H28 年度までに英語 1 名、理科 1 名、社会 1 名終了)
- ・H29 年度より短期派遣研修実施 (デザイン、音楽、英語・学校運営全般)

取り組み③ IB (MYP/DP) 候補校、認定校申請準備

- ・申請書、アクションプランは決定事項を加筆しながら作成 (日本語・英語)
- ・クインシー亀田氏を迎え、内容の確認を兼ねた学習会を実施 (4 月、5 月、8 月)

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) 中高の学びの接続を意識した教材研究 (小学校外国語の方向性、高知県、高知南中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校の研究内容、教材等の情報収集等)
- b) 小中学校の授業参観と協議への参加 (5 月高知南中学校、6 月久礼小、久礼中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校での短期研修 I、8 月、9 月評価について南中学校と協議)
- 基礎力を補う手立ての研究 (副教材検討、補助教材や情報の収集)
- c) 授業研究や評価研究を共に行い、視点を共有
- d) 総合的な学習の時間 (個人研究) を支える教科横断的な英語指導の計画。教材の検討中
- e) 環境づくりのための予算計画を提出済み

C/A 課題 (●) と今後の取り組みの方向性 (→)

取り組み① 平成 30 年 4 月中学校開校に向けての準備

- a) 広報活動
- 「評価 (学力観)」について、入学対象の保護者、本県の教職員への周知が充分ではない。
 - 説明ツールを作成することで、HP での公開や開校後のミーティング等で、誰でも説明できるように準備をする。【今年度中】
 - 県の課題解決やスムーズな統合に向け、モデル校としての役割を果たせるよう評価の研究をする。
 - 積極的に公開授業やオープンスクールを実施し、理解啓発を進める【開校後】
- c) 開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等→小中学校課等と連携し遂行する【年度内】
- d) 入学生の把握、生徒サポート
- 入学者について小学校との引継、教職員で情報共有しておく【3 月合格者確定後】
 - 保護者ワークショップなどによる家庭との連携を強化する【開校後】
 - 本校教職員に対して、高知大教授を招聘し特別支援教育の研修を設定する【年度内～開校後】

取り組み② 授業 (MYP/DP) 研究 と ③ 候補校、認定校申請準備

- MYP 授業計画は進んでいるが、DP を見通した計画としては不十分であり、各専門分野や TOK の研究が充分ではない。
- 教員を生徒役として模擬授業を行う。TOK は教員全員が校内外で研修する。【年度内～開校後】
- DP の指導者、特に英語で指導できる教員の育成。IB 教員養成の大学に情報提供など協力を依頼する【年度内】
- 定期的に外部アドバイザーに確認をとりながら仕上げる【年度内 2 回】
- 先進校からの情報収集 (DP 授業者としての具体的な準備、MYP との接続の視点など)【年度内】

取り組み④ 英語力強化の研究

- a) MYP の実践を通した英語力について研究
- 授業参観、研究協議への参加。事務局指導主事等にも助言をいただく【年度内】
 - 東京学芸大学附属国際中等教育学校において短期研修 II を行う【11 月 20 日～24 日】
- b) 幅広い学力層に対応する手立て
- 高知南中学校での英語評価研究。授業研究を行う【11 月】
 - 英語学習アプリケーション、外部試験の選定、授業教材作成等を進める【年度内】
- d) 教科横断的な学びを意識した指導計画
- 英語で行う総合的な学習の時間の計画を作成する。
 - DP を見据えて再整理する。【年度内】

平成 29 年度 到達目標

- ・IB MYP 候補校として認定を受けるに値する準備を 3 月までに完了 (申請書類の完成は 2 月予定)
- ・地方の公立学校が IB 教育を実践することの意味をより具体的に県内に理解してもらう
- ・県全体への還元を旨とし、IB (特に評価) について県内教員に学びの場を設定